

肉用牛への飼料給与



粗飼料

牛本来の食べ物(ごはん)です
粗飼料とは、イネ科やマメ科の草そのものやその草からつくられたエサのことで、
給与方法によって、生草、サイレージ、乾草に区分できます。



バランスが
大切です

牛の胃は4つ



第1胃には特に多くの微生物が住んでいるので、人間では消化できない繊維質も消化することができます。

牛はエサを食べてから1時間ほどで、胃の中のエサをまた口にもどしてかみくみできます。(これを「反すう」といいます。)

反すうの時間は、1日で4～9時間にもなり、第1胃内の消化を助けたり、微生物を増やす助けをしています。

★稲わら

稲わらは、嗜好性も高く栄養価にも優れています。

稲わらは、地元の稲わらを収集し、堆肥を還元することにより環境の保全や資源循環型農業の推進にも重要な役割があります。



★牧草類

イネ科の多年草チモシーやマメ科のアルファルファは、栄養バランスもよく、消化もされやすい良質の粗飼料です



濃厚飼料

穀物を主としたエサ(おかず)です
デンプン、タンパク質の含量が高い飼料で、トウモロコシ、大豆、麦などを原料として混ぜ合わせて給与します。



★トウモロコシ

デンプン質が豊かで、穀類としては脂肪分が多いので飼料のエネルギーとしての役割があります。

飼料として給与される場合は、蒸気を通して加熱し圧せんされフレーク状になっています。



★大麦

良質な肉質を作るために給与されます。

トウモロコシと同様に圧せんしたり、粉碎加工されて飼料になります。



★ふすま

小麦から小麦粉を製造する際の副産物で、主に外皮の部分です。



★大豆粕

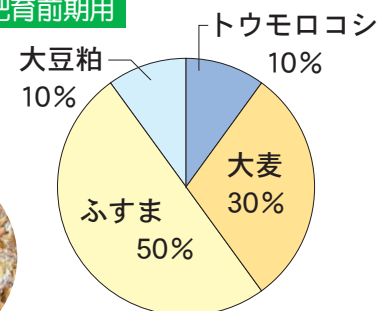
大豆から食用油を搾り取った後の粕を大豆粕といいます。

良質の植物性たんぱく質飼料です。

飼料の配合割合

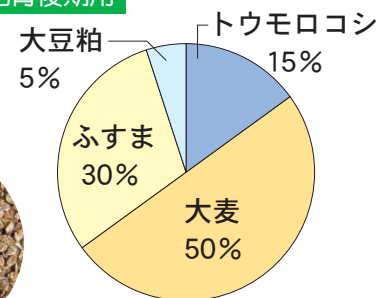
(黒毛和種雌肥育の一例)

肥育前期用



生後10ヶ月齢～20ヶ月齢
1日平均給与量 6 kg～7 kg

肥育後期用



生後20ヶ月齢～30ヶ月齢
1日平均給与量 7 kg～8 kg